ケアマネジメント実践ネットワーク
メールマガジン　Vol.8

2023/10/24　配信分

今回のメイントピック

適切なケアマネジメント手法実践研修における事例の紹介　part7

性別	女性	認定区分	要介護１	年齢	87歳
居住形態	戸建て、独居世帯		主な疾患	大腿部頸部骨折	
利用サービス	通所リハビリ（週２回）、在宅マッサージ（週1回）、福祉用具貸与（手すり）				

この事例を選定した理由

自力で階段を昇降したいという本人の目標に対して、リハビリなどを進めてきたが、その**目標や利用者の身体能力の評価について、本人と家族間でずれが生じていると感じた**。改めて情報収集したり、それぞれの思いを聞き取ることで、互いの目標をすり合わせながら、身体機能の維持に向けた支援をしたい。

研修開始時における事例の課題：利用者と娘の目標、思いのずれ

自宅階段での転倒が原因で大腿骨頸部骨折となったため、現在は別邸の平屋に引っ越して暮らしている。**本人は「階段のある自宅に戻りたい」**と思っており、それを目標にリハビリや趣味の家庭菜園を積極的に行っている。目標に向けて無理をしてしまうこともあり、夏場の外作業による脱水、めまい等の症状が発生したこともある。**別居の娘は再転倒が不安で、自力の階段昇降という目標は難しいと思っている**。

実践研修で着目した基本ケアの項目と実際の取り組みと変化

項目７　フレイルを予防するための活動機会の維持

夏と比較して、**冬は往診や畑仕事のための外出が大幅に減少している**ことがわかった。利用者の身体機能の維持を目指し、冬場の体力低下を防ぐために、**地域資源の活用をすべく社会福祉協議会等の活動、地域での仲間づくりのためのコミュニティの有無を確認**した。また、**通所リハのスタッフとは階段昇降の様子などを動画を通じて情報共有する体制を整えた**。

項目38　持っている機能を発揮しやすい環境の整備

手すりを使いながらの**階段昇降が可能となったため、階段のある自宅に戻る**ことになった。利用者の生活習慣や動作、階段昇降以外の生活を継続する上での課題を把握し、**継続的に生活できるような支援体制を検討**した。しかし、娘のいないタイミングでの外出制限や日中は1階で過ごすという行動制限があり、利用者が納得する生活にはなっていない。**今後は本人や娘への聞き取りを継続すると共に、外出制限による閉じこもりや身体機能の低下が起こらないような支援を検討**したい。

項目40　家族等の生活を支える支援及び連携の体制の整備

娘の思いを確認したところ、**再転倒の不安に加えて、同居して介護することができないことに対する責任感を感じていることがわかった**。自分が見ていない時に再転倒することへの不安から利用者の階段の利用や外出を制限している。**今後は利用者の思いや客観的な身体能力の評価を伝えることで、利用者と娘の思いのすり合わせ**をしたい。

「適切なケアマネジメント手法」基本ケアに関する資料は下記HPから閲覧できます。
URL： https://www.jri.co.jp/service/special/content11/corner113/caremanagement/04/

▼冊子　▼項目一覧

適切なケアマネジメント手法に関するQ&A

Q.多職種との「共通言語」として活用するとは具体的にはどういうことですか？

A. **どのような支援内容を、なぜ検討する可能性があるのか**、そ**の支援の必要性の検討にはどのような情報が必要か**、という点をケアマネジャーと他の職種との間で具体的に共有できるようになります。例えば、退院時のカンファレンスで活用する場合、利用者が退院する際に、疾患に応じて特に留意すべき支援やその必要性を検討しやすくなります。
本手法では、**「支援内容を検討する際の前提となる知識を共有できること」＝「共通言語」**と表現しています。
多職種との連携については、「適切なケアマネジメント手法の策定や多職種協働マネジメントの展開に向けた実証的な調査研究事業」の調査研究報告書などもご参考ください。

Q.項目一覧にある項目の数が多く負担を感じており、ご利用者本人や家族にとっても負担が大きい。全部の項目に取り組まなくてはいけないのですか？

A. 本手法は、利用者の尊厳の保持と自立支援を踏まえ、現在の生活をできるだけ継続するために想定される支援内容を列挙したものです。詳細な情報項目（アセスメント項目、モニタリング項目）も記載しているため、項目数が多く見えますが、**これらの情報を一度に全て収集する必要はありません**。本手法で重視するのは、**視点の「抜け・漏れ」を無くすこと**です。
①まずは、**自己点検を通じて、ご自身が収集していない情報がないか確認**してみましょう。
②その上で、視点が抜けていた項目・情報収集が不十分だった項目の中から、**優先的に収集すべき項目を選び、追加の情報収集を実施してみましょう**。（過去の研修では３～５項目に取り組む方が多かったです）

HPには他にも様々なQ&Aが掲載されていますので、ぜひご覧ください。
URL： https://www.jri.co.jp/service/special/content11/corner113/caremanagement/06/

適切なケアマネジメント手法検討委員インタビュー動画紹介

「リハの目線から見るケアマネジメント」

国立障害者リハビリテーションセンター研究所 障害工学研究部 部長　東　祐二　先生

東祐二先生の動画では、「リハの目線から見るケアマネジメント」というテーマで、自立支援に資するマネジメントとしてリハビリテーションの視点で重要な観点をとして、「本人の現存する能力や潜在能力を最大限に活かしてADLやIADLといった生活行為の向上を図るためのサービス提供の観点」、「利用者の自己実現に向けたサービス提供の観点」、「利用者の主体性を得るために必要な要素を上手く活用する観点」という3つの観点を紹介していただきました。日々のサービス提供において、ご参考いただければ幸いです。

動画の視聴はこちらから！

このメールマガジンで取り扱って欲しいトピックを募集しています！

このメールマガジンでは、今後も「適切なケアマネジメント手法」などケアマネジメントに関する情報を発信していきます。ケアマネジメント実践ネットワーク会員の皆様は、このメールマガジンで取り扱って欲しいトピック、提供して欲しい情報などがございましたら、下記のお問い合わせ先までメールにてお気軽にご連絡ください。

次回の配信日は**2023年11月14日（火）**を予定しております。

お問い合わせ先
株式会社日本総合研究所 創発戦略センター ケアマネジメント実践ネットワーク事務局 辻本、山内
E-mail　**100860-caremaneML@ml.jri.co.jp**
※事務局内での管理・共有のため、メールでのご連絡をお願いしております。